

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

函館病院

ほかではやっていないがん予防に力を入れつつ
最重要課題として臨床研究医の教育にも取り組む

当院は中規模病院で、循環器病センターやがん予防センターがあります。呼吸器、消化器のがん診療が中心ですが、これに並行してほかの病院ではやっていないがん予防にも力を入れています。

従来の循環器医療センターという部分を維持しつつ、がん診療も増やしていきますが、それだけでなく、予防にまで広げた診療を行うのが目標です。

われわれが取り組んでいるがん予防の1つが、胃がんの予防です。胃がんはピロリ菌感染が原因で、いわゆる感染症が元で起こるがんです。ですから、なるべく早い時期にピロリ菌の感染を調べ、除菌することが重要です。

北海道では相当数の市町村で、中学生のピロリ菌検診が実施されています。函館市内でも、全中学生に対してピロリ菌検診が始まっています。そこをもっと広げ、除菌治療までもっていくことが1つの目標です。

もう1つは、これはまだ当院しか実施していない取り組みですが、中学生だけでなく、成人にもピロリ菌検診を行い、陽性者を見つけ、内視鏡検査をしてから除菌、その後も内視鏡検査でフォローしていきます。ピロリ菌の除去は、若いときにやればやるほど除菌効果は高いのに、20歳以上の人たちにピロリ菌があるかないかを調べる手段が限られています。そのハードルをより低くして、ピロリ菌がいるかないかを調べられる「ピロリ菌検査」を広げていきたい。その先駆けとして、当

院が成果を上げられれば、全国に広がっていくのではないでしょう。

胃・大腸がん予防対策の1つは、検診をたくさん受けてもらい、ピロリ菌陽性者や便潜血陽性者を拾い上げること。それから、大腸の場合はとにかく全部ポリープを切除すること。消化器の分野では、そこに力を入れています。

研修については、少人数ではありますが、そのぶん他の医療スタッフとも親密になり、細かい指導ができる。そんなメリットがあります。何かあればどんどん相談できる、マンツーマンの指導体制です。たくさん症例を経験したい、勉強したい人にとっては、当院はすごく良い環境だと思います。

最後に若手医師へ私からのメッセージですが、若い時こそ、苦労したほうがいい。体力のあるうちにいろいろな経験しておかないと、後から勉強しようとしても、誰も教えてくれないですから。若いうちにたくさんの経験をする。それから、できるだけ多くの先生方の講演を聴く。耳学問でもいいので、勉強できるチャンスを利用する。本当に困った症例に遭遇したら、自分で勉強したり、他の先生にアドバイスを受けたらいいでしょう。それ以外の、自分の担当ではない患者さん、いつか出会うかもしれない症例について、見聞を広めておく必要があります。そういう意味でも、いろいろな先生の経験談や講演を聴くチャンスを見逃さないでほしいですね。



院長PROFILE

加藤 元嗣 (かとう・もとつぐ)

1982年北海道大学医学部卒業。

98年アメリカ合衆国ベイラー医科大学留学、99年北海道大学病院光学医療診療部助教授、2007年同准教授及び部長、2010年同診療教授を経て、2016年函館病院院長に就任。

日本消化器内視鏡学会理事・専門医・指導医、日本消化器病学会財団評議員・専門医・指導医、日本消化器管学会理事・専門医・指導医、日本ヘリコバクター学会理事・ピロリ菌感染症認定医、日本カプセル内視鏡学会代議員・専門医・指導医、日本神経消化器病学会理事、日本大腸肛門病学会評議員・専門医・指導医、日本内科学会指導医を務める。

函館病院 DATA

■所在地

北海道函館市川原町18番16号

■病床数

310床

■診療科目

内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科／外科・消化器外科／呼吸器外科／心臓血管外科／乳癌科／放射線科／整形外科／婦人科／泌尿器科／眼科／皮膚科／病理診断科／麻酔科／リハビリテーション科／緩和ケア科／総合診療科

■研修の特徴

プライマリケアを中心に、医師として幅広く必要な診断能力を身につけることを目的としています。少人数なぶん、各科の医療スタッフと親密になれる、意志疎通もスムーズで、目が行き届いたきめ細かな指導を受けられます。何かあればすぐに相談できる、マンツーマンの指導体制です。また、地域医療連携室を通じて、地域医療連携の研究会や教育講座を定期的に開催しています。

第10回国立函館病院健康まつり
高校生内視鏡体験 (平成28年10月2日)

外來ホールドーム



平成28年11月1日付で、NHO函館がん予防センターを設立、がん対策としての一次予防、二次予防の普及及び啓発活動に取り組んでいます。



東から函館市内を望む、手前に函館病院遠くに函館山

函館病院のある街

日本で最初の国際貿易港である函館市は異国情緒溢れる街

日本最初の国際貿易港である函館市は、北海道の南部、渡島半島の南東部に位置する。北海道の中でも、函館は住みやすい街だと言われる。雪も少なく、道内では暖かいほうだ。2009年には日本一魅力ある街に選ばれている。

1854年、開港とともに外国人居留地が作られ、その影響で異国情緒漂う街並みが残り、夜景や温泉街など北海道屈指の観光スポットとしても人気を集める。

イベントも数多く行われている。「函館港まつり」「五稜郭祭」「函館野外観劇」など。「函館港まつり」の「いか踊りパレード」には、函館病院か

らも毎年100名以上が参加し、祭りを盛り上げているそうだ。

日本初の国際貿易港だった函館は、世界各地からさまざまな食文化を取り入れてきた。その伝統が残っていて、函館はグルメの街でもある。イカなどの水産資源を利用した食品の製造と流通が発達した場所でもあり、イカは市の魚にも選ばれている。ほかに「献上昆布」と呼ばれる真昆布や、戸井マグロも美味しいと評判だ。地元の食材を取り入れた料理や「くじら汁」、「ごっこ汁」など、ここでしか味わえない郷土料理もたくさんある。朝市の食べ歩きなどもおすすめです。

